

四谷の

千枚田だより



第133号

まったく、善意が泥棒の養成場に化している。

たわごと

今日も朝から大勢の人たちで賑わった。関東から観光バスで訪れた四十七名はワイワイがやがや言いながら千枚田を往復散策した。(舜)は稲刈りの支度で「はざなる」をいじっていたが、行きも帰りも「ご苦労さま」とまでは言わなくても「こんにちわ」の一言があってもいいんだと思いつながら作業をしていたが結局、この団体であいさつのあったのは二人だけであった。

愚痴のついでだが、バスから降りた旅客が便所は何処だ、紙に書いてあるが遠いのか、と聞かれた。示された絵図には身平橋の集会所が便所に記されていた。冗談じあない、集会所の便所は身平橋組の住民各戸がお金を出し合って作ったもので遊びに来た連中に「どうぞ使ってください」など、毛頭ない。仮設トイレも小山泰弘理事夫婦が毎日掃除をしておもてなしをしているにも関わらず「協力金箱」も何百円が貯まったかどうかで盗まれてしまう。

市から農

地環境保全整備補助金として年度末に十二万円という大金をいただいているがトイレの汲取り料に約四万五千円が消えてしまう。他に年二回の「ふれあい広場」の草刈り、老朽か所の補修整備など都市近郊から憩い、癒しを求めにやってくる年間約二万人に少しでも佳い思い出を出すと頑張っているものの、つい愚痴が出てしまう。

市に、せめてトイレの汲取り料くらい補助金を上乘せしていただけないかと持ち上げたがバツサリ。十四年前までは百人に満たなかったが、住民が一心になって今では二万人を越す賑わいに満ちた地域に育て上げた、その功績は大きなものであり、「市の顔」、「県の宝」として囃され、パンフレットや広報誌にジャカジャカ使われている。訪れた二万人が市内周辺(連谷地内)には商店や自動販売機は無い)に落とすお金は大きいと思ひ、観光課に打診しても「農業の生産の場」と冷ややかである。では、環境課にお願いを

してみようかとは思うものの今一歩踏み出せない。

役員会では「道を作ってくれたのは嬉しいし、わしらは一生懸命、田んぼを耕したり、ほうぼうをきれいにしておるだが、遊びに来る連中のマナーの悪さ(全部ではないが)が目立つ。何でそこまで尽くさなきゃあならんだん。どっちみち、補助金十二万円はわしら(保存会)の足しになる銭じゃあないし、いっそ頂かなくて、何んにもしないほうが得じやん、仮設トイレも一回、取り払ってみるか。それに、市の顔とか宝なんちゅったつてもわしらにはあんまり関係ない。あつちを見てもこつちを見ても「千枚田」の写真を使いまくっている。これも、やめてもらったらどうだん」。等々、愚痴や本音が続出。気弱な会長も「ふんふん」と役員の見解に相槌を打たざるを得ない状況であった。とは言うものの人の好いのも程々の連中ばかり、明日もニコニコしながら田んぼに出ておる事には間違いない。追記 つい先日、獣害対策の電気柵タイマー(夜間のみ通電)を盗まれてしまった。ドロボーはご丁寧なタイマーだけ盗み、コンセントは直接電源に差し込んでいった。それを知

らずに遊びに来た連中や草刈りをしていた百姓、散歩中の愛犬などが電気ショックを被った。収穫まじかなこの時期に猪や鹿に荒らされたら唯でも厳しい棚田の保全意欲を失うことが大きく心配される。

千枚田にベンチ設置



八月三十日、保存会は新城市地域活動交付金の採択を受け、千枚田が一望できる入口付近(COP)に木製ベンチ四基を設置した。当日は役員全員が出役。ベンチ設置か所の地ならし、穴掘り、組立・設置と日頃慣れた作業でも家に帰ってからの、さすがに疲れて寝てしまったようだ。

ジオツアー

八月三十一日、鳳来寺山自然科学博物館主催のジオツアー「四谷の千枚田で生きものと地形地質を観察しよう」が参加者二十名で行われた。

講師は博物館学術委員地質部門の仲井豊先生・鳥居孝先生、動物部門は(舜)が担当した。地質部門の両先生の説明から、千枚田周辺は地形地質から見ておおよそ千五百万年前と、それよりずっと若い年代の地殻変動から成り立っている。棚田を形成している石積みも角が取れて丸味をおびていることから火山活動の余波の転石であることが解る。等々、興味深いお話が聞けた。



敬老会

九月七日、連谷公民館・コミュニティ主催で連谷地区敬老会が催された。

連谷地区には八十才以上のシニアは五十七名で地区人口の十人に二名の比率である。人生経験豊かな連谷の超シニアは意気軒昂である。



連合31名

与良木 10名
方瀬 6名
真菰 3名
松下 12名
四谷 26名
大代 5名
大林 6名
身平橋 15名

案山子

九月二日、連谷小児童四名はそれぞれのモチーフを活かした案山子を学校田に立て、豊作を願った。

全校児童四名のうち二人の女子児童は今年最後の案山子を感慨深げに立てていた。



稲刈り

九月十一日、豊橋調理製菓専門学校一年生四十名は学習田の稲刈りと地域料理の五平餅作りの実習を行った。

当日、稲刈りは市地域整備課の指導で生育調査、稲刈り、はざ架けを学び、地域料理は地元のおっ母さん

と市農業課の阿部さんの指導で五平餅づくりに挑戦。形は今いちだが美味しいと自己評価した。



今後の予定

- ・九月十四日、棚田の楽耕の稲刈り
- ・九月二十三日、JAこども農学校の稲刈り
- ・九月二十三日、新城高校農業クラブの稲刈り
- ・九月二十四日、連谷小の稲刈り
- ・十月五日、千枚田周辺の環境整備(草刈り作業)

行 平成二十六年九月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二